

平成 31 年 2 月 20 日

平成 30 年度 「産業社会と人間」プレゼンテーション あいさつ

平成最後の「産社」の発表会となりました。

これまで、皆さんは、4月から継続して課題に取り組んできました。11月の中間発表では、今日ここにいらっしゃる講師の先生方と活発な議論が行われ、その様子を大変今日深く拝見しました。

さて、ここで取手一高が総合学科であることを改めて認識してもらいたいと思います。

「総合学科」という名称が初めて使われたのは、平成3年の国の中央教育審議会の答申です。これを受けて、平成6年には、最初の総合学科高校として、筑波大学附属坂戸高校が誕生しました。

今年、産社の取り纏めをしていただいている石塚先生をはじめ、奈幡・池田先生には、今後のために、改めて坂戸高校を視察してもらいました。

茨城県では、平成10年に八千代高校が最初に総合学科になりました。本校はそれから5年遅れることの平成15年に総合学科に改編され今に至ります。ちょうど皆さんが生まれた頃でしょうか。そして、今日、平成最後の産社の発表会。いろいろなことが頭に浮かびます。

総合学科の高校では、「産業社会と人間」という教科、これが必修になっています。皆さんは、他の学校でも同じようにこの取り組みをやっていると思っているのかもしれませんが、7校だけです。そして、産業社会と人間には、「自己の在り方生き方」を認識することが、平成5年3月に出された通知にも色濃く示されています。

今日は、11グループのプレゼンテーションがありますが、どうか、これをきっかけとして、今述べた「自己の在り方生き方」について今後も考えていくきっかけにしたいと思います。

皆さんの取り組みに期待しています。